



(吉野山)

調査地は、奥山麓寺の南東約三〇〇mに位置し、藤原京条坊では左京十二条五坊東北坪・同六坊西北坪に相当する。県道檀原神宮東口停車場飛鳥線の拡幅工事に伴って、三六三㎡を発掘した。

なお、県道の工事に伴う山田道の調査はこれまでに計一〇次を数えているが、古代の阿倍山田道に関わる

奈良・山田道跡

やまだみち

- 1 所在地 奈良県高市郡明日香村奥山
- 2 調査期間 第八次調査 一九九九年(平11) 十二月～二〇〇〇年二月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 黒崎 直
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

明確な遺構は確認できていない。また、一九九〇年の第三次調査では、木簡四点が出土している(本誌第二三号)。

第八次調査区は、東区・中区・西一・三区の五区に分かれる。木簡は、西二区で検出した素掘り南北溝SD三八八〇から一点が出土した。溝の規模は幅二m以上、深さ一・二m。南の丘陵部から北へ延びる浅い谷の中央部に位置するが、底部の様相から掘削された溝とみられる。SD三八八〇からは、木簡のほか、木製品(横櫛・琴柱・棒・部材)、土玉、飛鳥Iに編年されるものを主体とする土器などが出土した。土器の年代観からみて、溝の埋没年代は七世紀中頃を下らない時期と考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1)



(141)×22×4 019

下端及び左右両辺は削り、上端折れ。墨痕は明瞭であるが、釈読は困難である。筆慣らしの類か。

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所年報二〇〇〇―II』(二〇〇〇年)

同『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』一八(二〇〇四年)

(市 大樹)